

沿岸生態系を活用した防災と減災： Eco-DRR の主流化と課題

2015年3月15日(日) 13:10～15:50(13:00開場)

東北大学川内北キャンパス 講義棟C棟2階 C206

生態系を基盤とした防災・減災(Eco-DRR)についての進展と我が国の動向を紹介するとともに、気仙沼や仙台湾における沿岸生態系の現状とその生態系特性を活用した防災・減災の取り組みについて口頭発表やパネルディスカッション等を通じて議論・情報共有し、Eco-DRRの主流化について提言を行う。

コンビナー 東北大学大学院生命科学研究所 教授 占部城太郎, 立教大学経営学部 プログラム・コーディネーター 竹本徳子

13:10～

はじめに

東北大学大学院生命科学研究所 教授 中静透

基調講演

生態系を基盤とした防災・減災：科学と政策における新たな進展

国連大学環境・人間の安全保障研究所環境脆弱性と生態系サービス課 課長 Fabrice Renaud



講演 1

生態系を基盤とした防災・減災と気候変動適応対策の促進に向けて

国際自然保護連合 シニア・プロジェクト・オフィサー 古田尚也

講演 2

コミュニティが生態系を活用した防災に果たす役割

コンサベーション・インターナショナル・ジャパン 代表理事 日比保史

講演 3

東日本大震災の津波復興における巨大海岸構造物に対する Eco-DRR 代替案と既存土地制度との相克

九州大学大学院工学研究院 准教授 清野聡子



14:25～

----- 休憩 -----

14:35～

仙台湾・気仙沼からの報告

報告 1

Eco-DRR の源泉としての海岸エコトーンモニタリング

東北学院大学教養学部 教授 平吹喜彦, 南蒲生/砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク

報告 2

蒲生に楽しい防災公園を

仙台の高校生で考える防潮堤の会(仙台教育技術研究所)

報告 3

生態学的土地・資源管理の一環となる環境形成技術について

東京大学空間情報科学研究センター 協力研究員 廣瀬俊介

報告 4

東日本大震災の津波被災地の子どもを対象とした ESD プログラムの役割と展望

東京農工大学大学院連合農学研究科 秦範子

報告 5

気仙沼市小泉地区「子ども小泉学」受講生報告

15:25～

総合討論・提言の採択

入場無料・同時通訳付き

事前登録：[生態適応センター Home Page](#) より

<気仙沼市小泉地区エクサカーションのご案内>

3月14日8時30分仙台駅東口集合・19時同所解散
子どもたちが現地を案内した後、リアス・アーク美術館にて「子ども小泉学」のワークショップを見学します
お申し込みは[生態適応センター Home Page](#) より 3月9日締切

問い合わせ先 | 東北大学生態適応センター
TEL: 022-795-3637 / FAX: 022-795-3638
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
e-mail: eac@g-mail.tohoku-university.jp
<http://gema.biology.tohoku.ac.jp/center/>



主催：東北大学生態適応センター

後援：環境省東北地方環境事務所 国際自然保護連合 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン 協賛：サラヤ株式会社



東北大学、海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト、国際自然保護連合、コンサベーション・インターナショナル・ジャパンは第3回国連防災世界会議を支援しています